

IGRいわて銀河鉄道株式会社

## 第103回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 浅沼康揮)では、「第103回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

【資料1】経営ビジョン及び中期経営計画について・・・ p.1～9

【資料2】2023年度事業計画について・・・ p.10～21

【資料3】2022年4月～2023年1月の輸送概況について・・・ p.22

【資料4】リアルタイム運行情報システムの運用開始について・・・ p.23～24

【資料5】沿線関連等の取組について(2022年12月～2023年3月)・・・ p.25～28

あさぬま やすき  
～代表取締役社長 浅沼 康揮 コメント～

2023年度から新たな「経営ビジョン」がスタートします。併せて、組織再編を実施し、推進体制の強化を図ります。これからも、安全・安定輸送の確保を第一に、より一層、沿線と連携を図りつつ、地域にとって「かけがえのない鉄道」であり続けられるよう、社員一同、鋭意取り組んでまいります。

※お問い合わせにつきましては、本日17時30分まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

IGRいわて銀河鉄道株式会社  
総務部 総務グループ(広報担当)  
TEL 019-601-9981 FAX 019-601-9997  
〒020-0133 盛岡市青山2-2-8  
URL <https://igr.jp/>

# IGRいわて銀河鉄道

経営ビジョン(2023~2032)

中期経営計画(前期:2023~2027)

2023(R5)年4月

IGRいわて銀河鉄道株式会社

# 1. はじめに

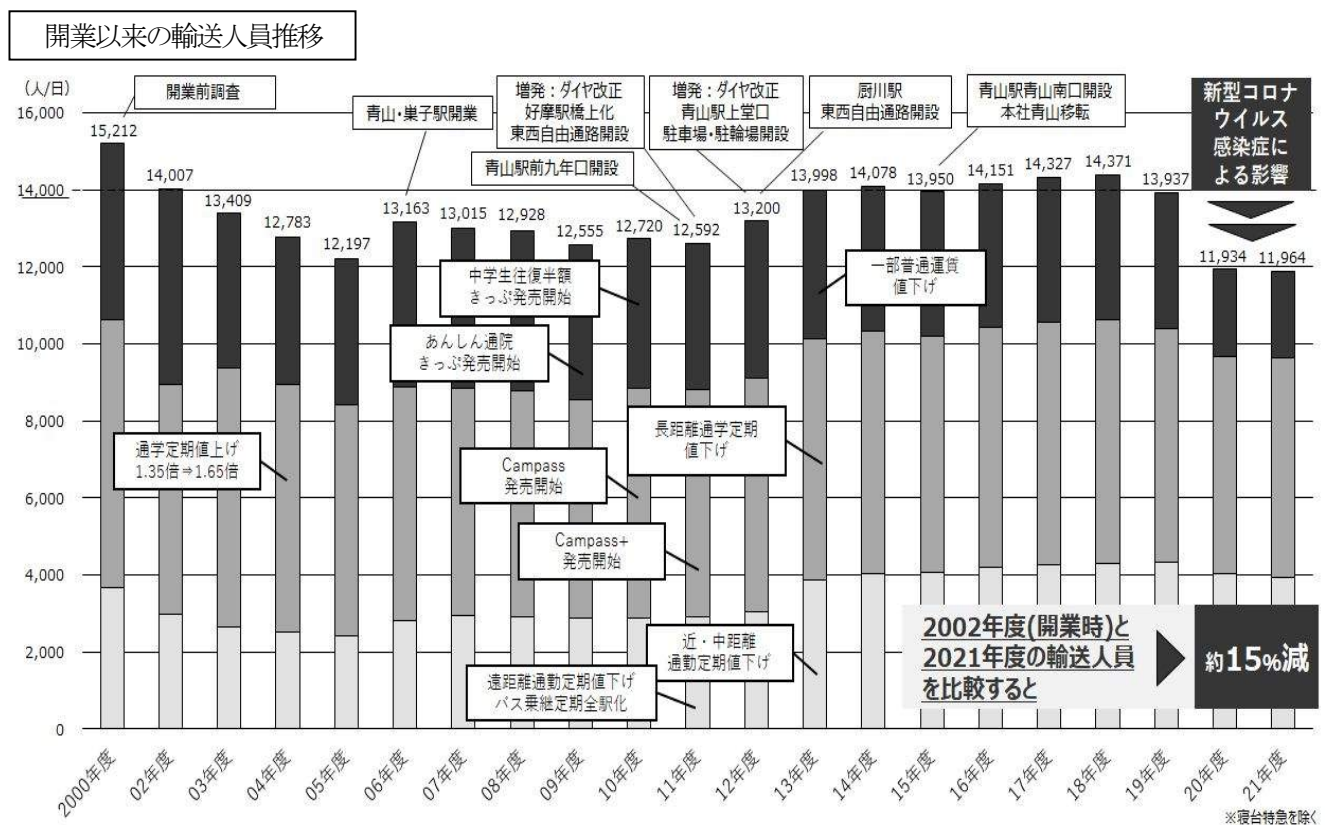
私たち IGRいわて銀河鉄道は、東北新幹線の盛岡～八戸間の開業に伴い、東北本線の盛岡～目時間の運行を引き継ぎ、2002年12月1日に開業しました。以降、地域に根差した鉄道事業者として、地域の皆様の通勤・通学・通院等の生活の足を確保しながら、沿線地域の活性化に尽力するとともに、我が国の鉄道貨物輸送の大動脈としての役割を担ってきました。

また、多くの皆様からご支援やご協力をいただき、2022年12月1日には、開業20周年を迎えることができました。

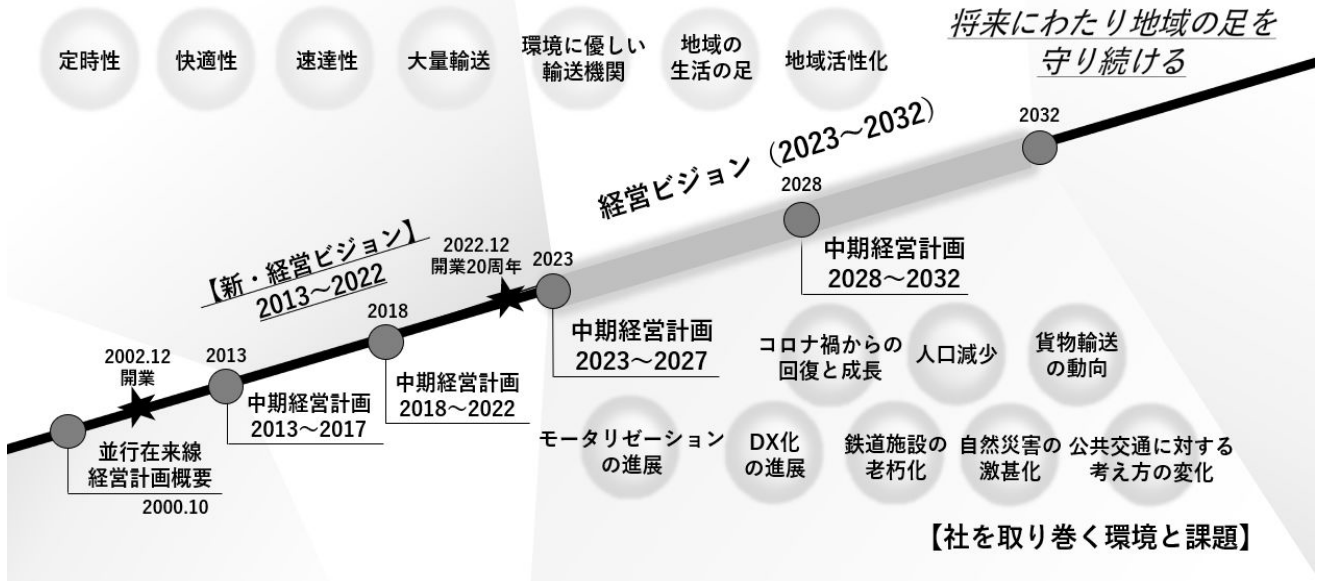
これまでの経営方針を定めた「新・経営ビジョン（2013～2022）」の10年間においては、お客さまの安全を第一に、鉄道施設の適切な維持管理と計画的な更新を行うとともに、新駅の設置や運行本数の増発、利便性の高い運行ダイヤへの見直しなどによる利便性の向上、新たな企画きっぷ・割引きっぷの造成や、運賃の値下げによる利用促進などを行いました。この結果、安全・安定輸送を継続しつつ、少子化や沿線人口の減少が進む中であっても、新型コロナウイルス感染症の拡大前においては、開業時と同水準の1日当たり約14,000人のお客さまにご利用いただきました。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大後は、旅客運輸収入の大幅な減少により、厳しい経営状況が続いており、今後においても、テレワークやWeb会議などリモートワークの定着、人々の意識・行動や社会構造等の変化に伴い、回復の兆しは見えつつあるものの、先行きは不透明な状況です。加えて、台風・豪雨災害など自然災害の頻発・激甚化や、資源・エネルギー価格の上昇、本格的なデジタル社会の到来や、さらなる人口減少の進展など、当社を取り巻く環境に大きな変化が生じています。

こうした変化に柔軟かつ適切に対応しながら、これからの10年においても、安全・安定輸送の確保を図りつつ、持続可能な鉄道事業の運営と成長戦略による収益拡大をめざしていくため、『経営ビジョン（2023～2032）』及び『中期経営計画（前期：2023～2027）』を策定しました。



【当社の強み】



## 2. 経営ビジョン及び経営計画の全体像

経営ビジョンについては、私たち IGRいわて銀河鉄道がめざすべき 10 年後の未来像である「経営理念」と、経営理念に基づく行動指針である「経営目標」により構成しています。

また、経営ビジョンを達成するための具体的な取組内容を定めた経営計画については、5 年間の計画である「中期経営計画」と、年度ごとの行動計画である「アクションプラン」により構成しています。

	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
経営ビジョン	経営理念									
	経営目標									
経営計画	中期経営計画（前期）					中期経営計画（後期）				
	アクションプラン（単年度行動計画）									

### 3. 経営理念

**人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします**

私たちは、開業から20年間、地域と共に歩み続けてきました。これからも、地域の公共交通機関として通勤・通学・通院など地域の生活の足を守り続けるとともに、北海道と本州を結ぶ日本の物流の大動脈としての責務を果たしながら、地域の未来と持続可能な発展に必要な不可欠な鉄道となることをめざしていきます。

### 4. 経営目標

#### I. 【信頼される鉄道】

**安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます**

安全・安定輸送の確保は、私たちにとって最大の使命です。

日々、安全を最優先に行動し、お客さまに安心してご利用いただける鉄道であり続けます。

#### II. 【元気な地域】

**暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します**

私たちは、この20年間、地域と共に歩み続け、多くの方とかかわり、地域の皆様との関係を築いてきました。地域に根差す鉄道会社として、皆様の暮らしと、にぎわいのある地域づくりに貢献し続けます。

#### III. 【挑戦する組織】

**常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします**

社内外を取り巻く環境は、目まぐるしく変化していることから、持続的な成長を続けるためには、その変化に柔軟に対応していく必要があります。常にチャレンジ精神をもち、社員の活力を最大限に引き出し、組織力の向上を図ります。

## 5. 中期経営計画(前期:2023(R5)年~2027(R9)年)

新型コロナウイルス感染症による行動変容や人口減少の進展、老朽化した施設・設備の取替等により、今後も厳しい経営状況が続くものと見込んでいます。

こうした中、10年後のめざすべき姿を定めた経営理念及び経営目標の実現に向け、今後5年間を持続的な成長を続けていくための基盤づくりの期間として位置付け、2023年度を初年度とし、2027年度を目標年度とする5か年計画を策定しました。

この計画に基づき、不変の使命である安全・安定輸送の確保を図りながら、地域に根差した鉄道会社として地域課題の解決や地域の活性化に貢献しつつ、さらなる発展を遂げることができるよう、積極果敢に挑戦し続けます。

### I. 【信頼される鉄道】

**安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます**

#### 【安全・安定輸送の確保】

##### 1-1：重大鉄道事故「ゼロ」の継続

運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化、多客輸送期間前の安全総点検の実施などを通じて、安全意識の深化・高度化を図り、重大鉄道事故「ゼロ」を継続します。

##### 1-2：鉄道施設や車両の適切な維持管理と更新

老朽化が進む鉄道施設や車両の適切な維持管理・更新を計画的に実施することにより、鉄道施設の安全及び車両の安定運行を確保し、信頼性の向上を図ります。

##### 1-3：異常時における対応力・即応力の強化

激甚化している自然災害や鉄道テロ等の緊急事案に迅速に対応できるよう、関係機関と連携しながら実車運転訓練や防災訓練などを実施するとともに、必要に応じて計画やマニュアル等の見直しを行い、異常時における対応力・即応力の強化を図ります。

##### 1-4：事故防止・安全啓発活動による安全意識の向上

春・秋の全国交通安全運動に併せた踏切事故防止運動や、小学校等での鉄道安全教室など、事故防止・安全啓発活動を実施し、沿線地域の皆様の安全意識の向上を図ります。

### II. 【元気な地域】

**暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します**

#### 【便利な鉄道】

##### 2-1：利用しやすい列車ダイヤへの見直し

鉄道の利用実態調査やお客さまの声に基づき、他の公共交通機関との接続性の向上や乗継の解消を図るなど、より利用しやすい列車ダイヤをめざします。

## 2-2：利用促進の強化

お客さまのニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成による新規需要の掘り起こしや、シームレスな移動を可能とするMa a S等の新たなモビリティサービスの提供、リアルタイムでの運行情報の発信による利便性の向上などにより、鉄道の利用促進を図ります。

## 2-3：キャッシュレスな乗車システムの導入に向けた検討

I Cカードやスマートフォンなどを用いたキャッシュレスな乗車システムの導入に向け、利便性の向上と合わせて、収益面やコスト面からも引き続き検討を進めます。

## 2-4：駅や車両の快適な環境の整備

お客さまの声をはじめとしたサービス向上に資する情報を社内で共有し、適時適切に対応・改善を図るとともに、より快適にご利用いただけるよう、駅や車両の利用環境の整備に努めます。

## **【地域との協働とにぎわいの創出】**

### 3-1：多彩なイベントやツアーと情報発信による地域のにぎわい創出

多彩なイベントの開催や、地域と連携した沿線への着地型ツアーの実施などを通じ、地域のにぎわいを創出するとともに、ホームページやSNSを活用し、沿線地域の魅力ある情報を発信することにより、交流人口の拡大を図ります。

### 3-2：地域の活性化とマイレール意識の醸成

I G Rパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、様々な事業を行うことにより、鉄道の利活用を通じた地域の活性化や、沿線の方々のマイレール意識の醸成を図ります。

### 3-3：駅を中心としたまちづくりへの貢献

県・沿線市町による公共交通ネットワークの形成や新駅の設置などの「駅を中心としたまちづくり」に、積極的に協力・貢献します。

## **Ⅲ. 【挑戦する組織】**

**常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします**

## **【経営基盤の確立】**

### 4-1：収支改善に向けた取組の強化

社員一人ひとりが新たな視点やこれまで以上のコスト意識をもち、利便性の向上や利用促進による需要創出により、安定的な収入の確保を図るとともに、徹底的なコスト削減に向けた取組を進めることにより、さらなる収支改善に取り組んでいきます。

### 4-2：持続的な経営が可能となる財務基盤の構築

全社一丸となり、最大限の経営改善を推し進めるとともに、国や県・沿線市町からもご支援・ご協力をいただきながら、安定的な事業運営と継続的な設備投資が可能となるよう、財務体質の改善を図り、持続的な経営に向けた財務基盤を構築します。

## 【持続的な成長】

### 5-1：絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくり

社内公募制度などにより、社員のチャレンジ精神の向上を図りながら、新たなアイデアや技術を取り入れることで、さらなる成長・発展につなげていく好循環を作り出すことにより、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。

### 5-2：外部環境の変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制の整備

新型コロナウイルスの感染拡大やDXの推進、少子高齢化の進展など、急速かつ急激な外部環境の変化にも迅速かつ的確に対応できる組織であり続けられるよう、組織・人員体制の不断の見直しを進めます。

### 5-3：働きやすい職場づくりやワークライフバランスの推進

働きやすい職場づくりやワークライフバランスを推進し、社員の満足度やエンゲージメントを高めることにより、生産性の向上を図ります。

## 【人材の確保・育成】

### 6-1：研修の充実・強化

持続的に成長する組織であり続けられるよう、社員の職務能力向上に向け、OJTや階層別研修などの社内外の研修の充実・強化を図り、次代を担い組織を牽引していく人材を育成します。

### 6-2：安全・安定運行に関する技術力や利用者サービスの向上

安全・安定運行を確保するための専門的な技術や知見の習得を促進するとともに、お客さまに快適にご利用いただけるよう、接遇研修等によりサービス・スキルの向上を図ります。

### 6-3：きめ細かな採用活動

新卒採用イベントへの参加やインターンシップの実施、多様な採用方法の導入など、きめ細やかな採用活動を行うことにより、将来を担う優秀な人材の確保に努めます。



## 6. 数値目標等

### ■中期収支計画（2023-2027年度）

（単位：千円）

	2021年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
営業収益	4,049,655	4,277,047	4,286,646	4,272,230	4,275,578	4,289,953
（うち旅客運輸収入）	899,543	1,070,441	1,090,509	1,124,120	1,116,697	1,109,380
営業費用	4,571,223	4,576,571	4,543,480	4,451,003	4,470,720	4,503,168
営業損益	▲521,568	▲299,524	▲256,834	▲178,773	▲195,142	▲213,215
当期損益	▲283,586	165,166	16,458	61,517	50,135	41,343

### ■中期設備投資計画

5年間概算 3,045百万円

### ■KPI（重要業績評価指標）

提供価値	取組の方向性	KPI	2021実績	2027目標値
I 信頼される鉄道	安全・安定輸送の確保	重大事故発生件数	0件	毎年度 0件
		1日当たりの運行本数 （花輪線を除く）	80本 （65本）	86本 （71本）
II 元気な地域	便利な鉄道	年間輸送人員	433万人	454万人
		企画きっぷ利用者数	34,000人	37,500人
	地域との協働とにぎわいの創出	企画列車運行日数	0日	12日
		自治体連携事業数	3事業	6事業
III 挑戦する組織	経営基盤の確立	社員（正規常勤）数	223人	199人
		E B I T D A <sup>※</sup>	▲157,507千円	260,757千円
	持続的な成長	業務改善提案件数	28件	34件
	人材の確保・育成	研修実施回数	10回	14回

※ E B I T D A＝営業損益＋減価償却費（現金支出を伴わない減価償却費や税金を控除する前の資金獲得能力を評価する指標）

## ■経営改善の主な取組内容

### 1 収入確保に向けた取組

項 目	内 容
利用促進の強化	① 県・沿線市町と連携した地域活性化に繋がる旅行商品の造成や交通弱者向けの企画商品等の造成 ② 利便性の高いダイヤへの見直しや、新たな企画商品等の造成 ③ 県・沿線市町と連携し、利便性の向上や利用環境の改善を推進
バス等との連携強化	コミュニティバスなどの他の公共交通機関と連携した割引きっぷ等の造成
運賃制度の見直し	① 乗継割引の縮小 ② お客さまの負担や他社の運賃水準を考慮した運賃の見直し
遊休資産の活用	鉄道林などの遊休資産の売却・賃貸
DXの推進	① デジタル技術の活用による生産性・利便性の向上 ② Ma a S等の新たなモビリティサービスの推進

### 2 コスト削減に向けた取組

項 目	内 容
車両更新計画の見直し	車両の長寿命化による車両更新時期の延伸
修繕・設備投資の見直し	優先順位の精査による設備投資の削減・平準化、効率的かつ工事費が低廉となる工法への見直し等
設備維持の低コスト化	ロングレール化やマクラギの長寿命化等による保守管理費の低減、不要設備の使用停止による維持費の削減等
組織体制の見直し等による人件費の抑制	① 事業企画部門の集約化や業務の効率化・省力化による組織のスリム化 ② 人員配置の適正化や計画的な採用による人員の削減
経費削減の継続実施	① 社内公募制度を通じた経費削減の取組の継続実施 ② 消耗品や電気料等の内部管理費の削減
関連事業の見直し	① 業績の改善が見込めない事業の縮小・廃止等 ② 要員の削減や業務の効率化による生産性・収益性の向上

## 2023 年度事業計画

### 1. 事業運営の基本方針

2023 年度においても、新型コロナウイルス感染症によるリモートワークの定着などの行動変容や、資源・エネルギー価格の上昇、老朽化した施設・設備の取替などにより、引き続き、厳しい経営状況が続くものと見込まれます。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染症法の分類が、本年 5 月から季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行することに伴い、社会経済活動の正常化に向けた動きが進み、鉄道利用の需要回復も期待される所です。

こうした状況の中、2023 年度は、新たにスタートする『経営ビジョン（2023～2032）』及び『中期経営計画（前期：2023～2027）』の初年度として、これらの計画に基づく単年度の行動計画である『アクションプラン 2023』に掲げる取組を着実に進めてまいります。

今後も引き続き、安全・安定輸送の確保を図りつつ、持続的な経営が可能となるよう経営改善を強力に進めるとともに、地域に根差した鉄道会社として地域課題の解決や地域の活性化に貢献しながら、地域の未来と持続可能な発展に必要な不可欠な鉄道となることをめざしてまいります。

【2023 年度の主な取組内容】※ 別添「アクションプラン 2023」参照

#### ① 安全・安定輸送の確保

- ・ 運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化を図るとともに、警察や消防、地域の皆様等と連携しながら、各種訓練や安全啓発活動を実施し、異常時における対応力・即応力の強化や安全意識の向上を図ります。
- ・ 設備投資計画に基づき計画的かつ効率的な設備投資を進めるとともに、工法の見直しや、レール・マクラギなどの鉄道施設の長寿命化により、工事費や維持管理費の低減を図ります。

#### ② 利用促進の強化

リアルタイムで列車の運行情報を発信することにより、お客さまの利便性の向上を図るとともに、運休・遅れ等が発生した際に迅速かつ正確性の高い情報提供ができるよう、異常時対応の体制を見直します。

#### ③ 地域との協働とにぎわいの創出

地域の関係機関と連携・協働し、沿線への着地型ツアーを実施するほか、各種イベント等への参画や沿線の魅力ある情報の発信を行うことにより、マイレール意識を醸成し、地域のにぎわいを創出します。

#### ④ 収支改善に向けた取組の強化

- ・ 組織体制や業務のスリム化を図り、効率的な業務執行体制を構築します。  
※ 「3. 組織体制」参照
- ・ 収益の改善が見込めない関連事業について、廃止・縮小することにより、コストの削減及び生産性の向上を図り、事業の収益性を高めていきます。

## 2. 鉄道輸送に関する計画

### (1) 基本方針

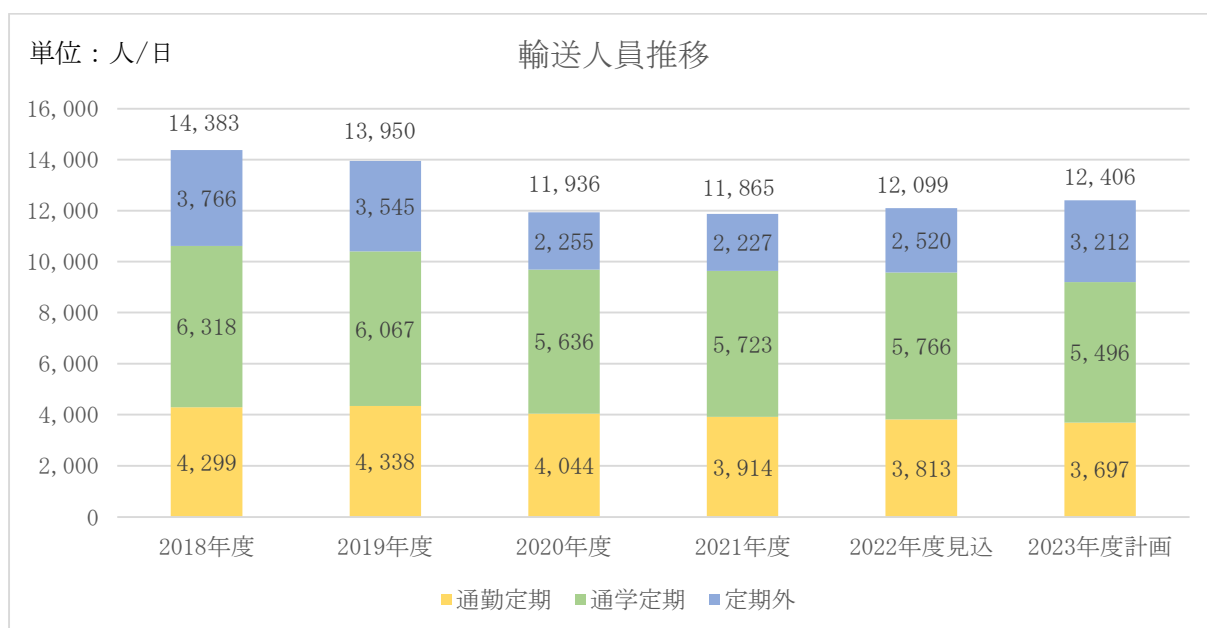
2023年3月18日に実施したダイヤ改正における列車設定を基本としながら、引き続き、外部環境の変化や輸送需要の調査・分析を進め、よりお客さまのニーズに即した運行ダイヤに見直していくことにより、お客さまの視点に立った輸送サービスの提供に努め、鉄道利用の拡大を図ってまいります。

### (2) 1日当たりの輸送人員の推移と計画

(単位：人/日)

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度(見込)	2023年度(計画)
通勤定期	4,299	4,338	4,044	3,914	3,813	3,697
通学定期	6,318	6,067	5,636	5,723	5,766	5,496
定期外	3,766	3,545	2,255	2,227	2,520	3,212
合計	14,383	13,950	11,936	11,865	12,099	12,406

※ 端数処理の関係で、合計が合致しない場合がある。



### 3. 組織体制

#### (1) 基本方針

組織体制の見直しを実施し、業務執行体制を強化するとともに、業務の効率化を図ることにより、要員を削減します。なお、2023年度以降においても、さらなる業務の効率化や省力化を推進していくことにより、計画的に人件費の低減を進めてまいります。

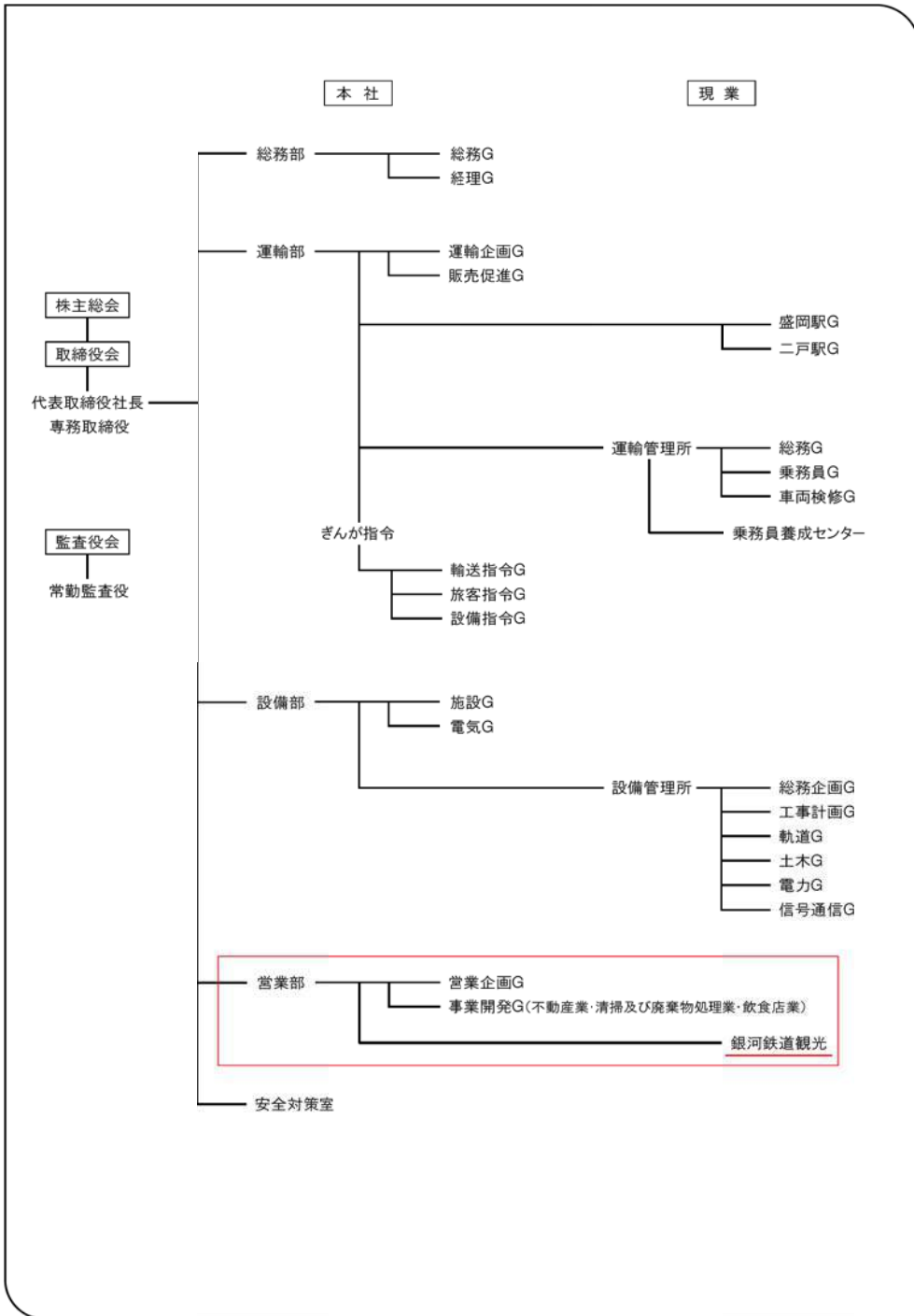
#### (2) 組織改編の主な内容（次頁：新旧組織図参照）

##### ① 地域連携拠点の整備及び駅の体制強化

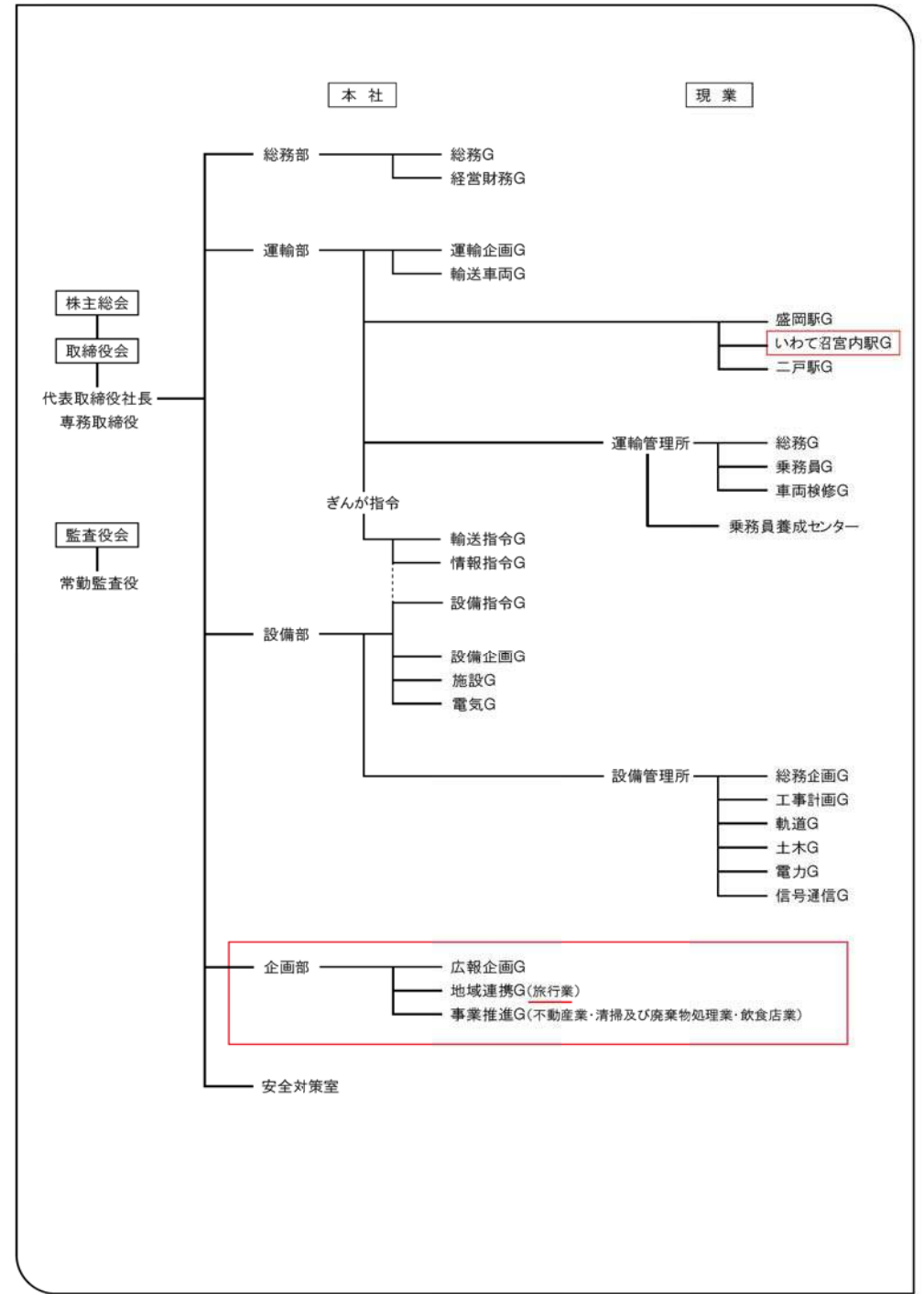
いわて沼宮内駅グループを新設し、地域連携の拠点として位置づけるとともに、駅の体制強化を図ります。

##### ② 事業企画部門の一元化及び情報発信・プロモーションの強化

企画部（現営業部）に広報・販売促進・旅行（銀河鉄道観光）の各部門を集約し、戦略的かつ効果的な情報発信やプロモーションを推進していきます。また、集約化を図ることにより、最小限の人員体制で効率的に業務を執行し、生産性・収益性を高めます。



現在



2023.4.1時点

## 4. 収支計画

### (1) 基本方針

安全・安定輸送の確保を第一に、今後の需要の変化を的確に捉えながら、事業の選択と集中を徹底し、より一層収支改善に向けた取組を推進することにより、持続的な経営基盤の構築を図ってまいります。

また、さらなる成長・発展に向け、社員一人ひとりがチャレンジ精神をもち、関係機関や地域と連携・協働しながら、積極的に鉄道の利用促進に取り組んでまいります。

### (2) 主な内容

県・沿線市町による運行支援のための交付金（300,000 千円）を営業外収益に計上したこと、また、2022 年 8 月に発生した大雨による災害損失（285,904 千円）のうち、2023 年度に完了する工事に係る補助金等の収入（174,700 千円）を特別利益などに計上したことから、2023 年度の当期損益は、165,166 千円の黒字となる見通しです。

※ 災害に係る損失については、2022 年度の決算見通しに特別損失として計上しています。

### (3) 収支計画一覧

(単位：千円、税抜)

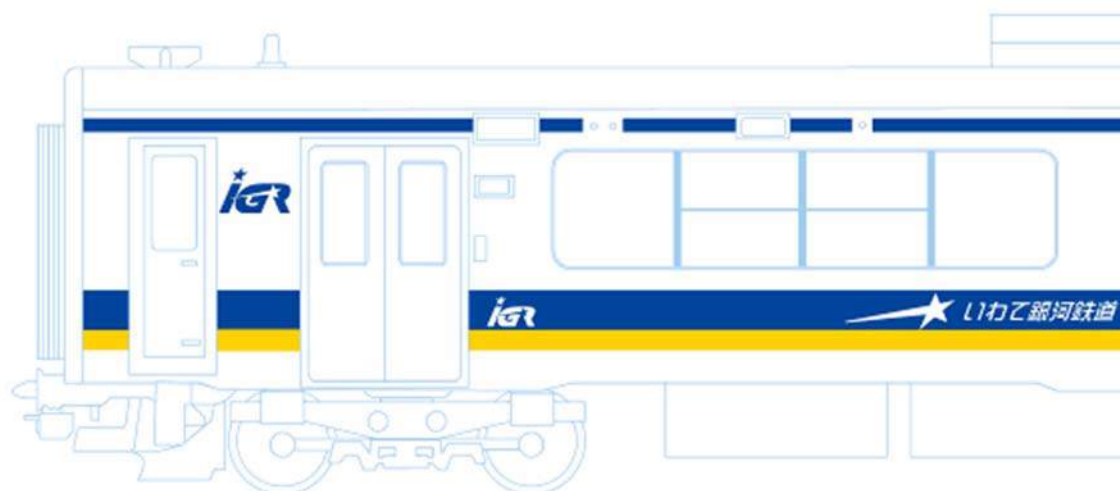
項目	2023年度 収支計画 A	2022年度 決算見通し (12月発表) B	増減 C (A-B)	摘要	2021年度 決算 D
<b>営業収入</b>	<b>4,277,047</b>	<b>3,919,535</b>	<b>357,512</b>		<b>4,049,655</b>
旅客運輸収入	1,070,441	975,205	95,236	2018年度の約85%を想定	899,543
線路使用料収入	2,952,840	2,612,923	339,917	災害復旧分(42,535千円)含む 設備投資単年度精算分(163,144千円)含む	2,667,945
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	253,766	331,407	▲ 77,641	コンビニエンスストアフランチャイズ契約終了 飲食業(盛岡市青山)閉店	482,166
<b>営業費</b>	<b>4,576,571</b>	<b>4,430,172</b>	<b>146,399</b>		<b>4,571,223</b>
人件費	1,086,670	1,108,400	▲ 21,730		1,111,092
業務費	890,232	847,974	42,258	電気料金等高騰 (2022年度(209,141千円)の1.4倍+83,654千円) 関連事業閉店等に伴う商品仕入の減 ▲47,923千円	903,207
修繕経費	2,048,296	1,974,615	73,681		2,074,303
諸税	163,862	120,089	43,773	固定資産税減免措置(並行在来線特例)終了	118,560
減価償却費	387,511	379,094	8,417		364,061
<b>営業損益</b>	<b>▲ 299,524</b>	<b>▲ 510,637</b>	<b>211,113</b>		<b>▲ 521,568</b>
営業外収益	330,152	420,662	▲ 90,510	いわて銀河鉄道経営安定化対策交付金 (300,000千円)	193,256
営業外費用	22,025	15,653	6,372		12,264
<b>経常損益</b>	<b>8,603</b>	<b>▲ 105,628</b>	<b>152,511</b>		<b>▲ 340,576</b>
特別利益	284,009	405,240	▲ 121,231	災害復旧関連補助金・保険金 2023年度分(132,165千円) ※期ずれにて2023年度取受予定 設備投資関係補助金(151,844千円)	183,675
特別損失	86,155	491,448	▲ 405,293	設備投資関係補助金に対応する固定資産圧縮損 ※2022年度災害損失:285,904千円	122,291
<b>税引前当期損益</b>	<b>206,457</b>	<b>▲ 191,836</b>	<b>398,293</b>		<b>▲ 279,192</b>
法人税等	41,291	4,394	36,897		4,394
<b>当期損益</b>	<b>165,166</b>	<b>▲ 196,230</b>	<b>361,396</b>	災害関連収入:174,700千円 (補助金・保険金・線路使用料)	<b>▲ 283,586</b>

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。





# アクションプラン2023



IGRいわて銀河鉄道株式会社

## はじめに

『経営ビジョン(2023～2032)』、『中期経営計画(2023～2027)』の考え方に即した今年度の具体的な計画が、ここで紹介する『アクションプラン 2023』です。

前年度は、2013 年度策定の『新・経営ビジョン』と 2017 年度策定の『中期経営計画』の最終年度であり、これまでの取組を評価する年でもありました。この間、2016 年の寝台特急の運行終了や 2020 年からの新型コロナウイルス感染症の拡大、沿線地域の人口の減少などにより、旅客運輸収入は大幅に減収しています。

こうした状況の中、開業 20 周年の節目を迎え、2023 年度は新たな『経営ビジョン(2023～2032)』のもと、10 年後のめざすべき姿に向けて新たな一步を踏み出します。地域に根差した鉄道会社として、「将来にわたり地域の足を守り続ける」という不変の使命を果たすべく、『中期経営計画(前期:2023～2027)』に掲げる 6 つの重点項目を軸に、目標の達成と諸課題の解決に向けて事業を推進します。四半期ごとに進捗状況を確認し、計画を見直し軌道修正していくことによって、取組を確実なものにしていきます。(この要約版は、主なものを抜粋したものです。)

### ■ 経営理念

人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします

### ■ 経営目標

#### I. 【信頼される鉄道】安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

鉄道の根幹である安全・安定輸送を確保するため、計画的な設備投資と維持修繕を実施します。また、地域の皆様への安全啓発活動を推進するとともに、異常時対応訓練や技能訓練を実施し、近年の頻発化・激甚化している災害への対応力の強化を図ります。開業以来の重大鉄道事故「ゼロ」を継続し、信頼される鉄道として安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます。

#### II. 【元気な地域】暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

鉄道の利用実態やお客さまの声に基づき、より利用しやすい列車ダイヤを目指すとともに、ニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成、リアルタイムでの運行情報の配信による利便性の向上により、鉄道の利用促進を図ります。また、コロナ禍で停滞していた地域イベントが徐々に開催されるなど、コロナ禍から回復の兆しがみられます。IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、鉄道の利活用を通じて地域の活性化に貢献するとともに、沿線地域の皆様のマイレール意識の醸成を図ります。

#### III. 【挑戦する組織】常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

事業の選択と集中を徹底し、会社を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しつつ、鉄道の利用促進など収入確保に向けた取組と、コスト削減に向けた取組を推進し、持続的な経営に向けた財務基盤を構築します。また、社員一人ひとりが常にチャレンジ精神をもち、社内公募制度などを通じて、新たなアイデアの提案や技術を取り入れることで、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。

# I.【信頼される鉄道】安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

## ◆重点項目 1. 【安全・安定輸送の確保】

<p><b>1-1. 重大鉄道事故「ゼロ」の継続</b></p> <p>運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化、多客輸送期間前の安全総点検の実施などを通じて、安全意識の深化・高度化を図り、重大鉄道事故「ゼロ」を継続します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 運輸安全マネジメント制度に基づいた運輸安全内部監査の実施</li> <li>② 多客輸送期間前の安全総点検の実施</li> <li>③ 「ヒヤリ・ハット」「気がかり事項」の収集・分析・共有と、安全推進委員会などで対策を検討・実施</li> </ul>
<p><b>1-2. 鉄道施設や車両の適切な維持管理と更新</b></p> <p>老朽化が進む鉄道施設や車両の適切な維持管理・更新を計画的に実施することにより、鉄道施設の安全及び車両の安定運行を確保し、信頼性の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 鉄道施設や車両の定期的な検修</li> <li>② 鉄道施設や車両の計画的な更新・維持管理（指令システムの更新や、車両部品の取替、ロングレール交換、電気踏切しゃ断機取替、電柱取替など）の実施</li> </ul>
<p><b>1-3. 異常時における対応力・即応力の強化</b></p> <p>激甚化している自然災害や鉄道テロ等緊急事案に迅速に対応できるよう、関係機関と連携しながら実車運転訓練や防災訓練などを実施するとともに、必要に応じて計画やマニュアル等の見直しを行い、異常時における対応力・即応力の強化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実車を使用した異常時対応訓練の実施</li> <li>② 防災訓練の実施</li> <li>③ 異常時に対応する計画やマニュアルの見直し</li> <li>④ 関係機関との連携強化（事故・テロ対応を目的とした警察、消防との合同訓練など）</li> <li>⑤ 他社主催の異常時対応訓練への参加</li> </ul>
<p><b>1-4. 事故防止・安全啓発活動による安全意識の向上</b></p> <p>春・秋の全国交通安全運動に併せた踏切事故防止運動や、小学校等での鉄道安全教室など、事故防止・安全啓発活動を実施し、沿線地域の皆様の安全意識の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 踏切事故防止運動の実施</li> <li>② 踏切脱出訓練の実施</li> <li>③ 交通安全教室の開催</li> <li>④ 安全啓発活動情報の発信</li> </ul>



車両部品の取替



実車運転訓練会



警察との合同訓練



交通安全教室の開催

## II.【元気な地域】暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

### ◆重点項目 2. 【便利な鉄道】

<p>2-1. 利用しやすい列車ダイヤへの見直し</p> <p>鉄道の利用実態調査やお客さまの声に基づき、他の公共交通機関との接続性の向上や乗継の解消を図るなど、より利用しやすい列車ダイヤをめざします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 主要駅利用実態調査の実施</li> <li>② お客さまの声の収集・分析</li> <li>③ ダイヤ改正調整会議</li> </ul>
<p>2-2. 利用促進の強化</p> <p>お客さまのニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成による新規需要の掘り起こしや、シームレスな移動を可能とするMaaS等の新たなモビリティサービスの提供、リアルタイムでの運行情報の発信による利便性の向上などにより、鉄道の利用促進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新規企画きっぷの造成</li> <li>② リアルタイム運行情報配信システムの運用開始</li> <li>③ いわて銀河鉄道利用促進協議会など、関係機関との連携</li> </ul>
<p>2-3. キャッシュレスな乗車システムの導入に向けた検討</p> <p>ICカードやスマートフォンなどを用いたキャッシュレスな乗車システムの導入に向け、利便性の向上と合わせて、収益面やコスト面からも引き続き検討を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① キャッシュレス決済での乗車システムの情報収集</li> <li>② システム導入可否の検討</li> </ul>
<p>2-4. 駅や車両の快適な環境の整備</p> <p>お客さまの声をはじめとしたサービス向上に資する情報を社内で共有し、適時適切に対応・改善を図るとともに、より快適にご利用いただけるよう、駅や車両の利用環境の整備に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① お客さまの声など、情報共有と迅速な対応</li> <li>② 駅や車両の利用環境改善(座面修繕など)</li> <li>③ 駅設備点検や巡視の実施と、改善に向けての意見交換会の実施</li> <li>④ 駅設備の改良計画の策定・実施</li> </ul>

### ◆重点項目 3. 【地域との協働とにぎわいの創出】

<p>3-1. 多彩なイベントやツアーと情報発信による地域のにぎわい創出</p> <p>多彩なイベントの開催や、地域と連携した沿線への着地型ツアーの実施などを通じ、地域のにぎわいを創出するとともに、ホームページやSNSを活用し、沿線地域の魅力ある情報を発信することにより、交流人口の拡大を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 沿線への誘客イベント・ツアーの企画と開催(銀河鉄道まつりなど)</li> <li>② 地域イベントへの参加・参画</li> <li>③ 交通関係イベントへの参加・参画</li> <li>④ ホームページやSNSを活用し、IGRのイベント情報や地域のイベント情報などの発信(「伝わっていく広報」の実現)</li> </ul>
<p>3-2. 地域の活性化とマイレール意識の醸成</p> <p>IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、様々な事業を行うことにより、鉄道の利活用を通じた地域の活性化や、沿線の方々のマイレール意識の醸成を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① IGRパートナーズ会や関係機関と連携・協働した事業の企画提案と実施</li> <li>② ファンクラブ会員に向けた新コンテンツの企画と実施</li> <li>③ ぎんきらショップ(オンラインショップ)でIGRオリジナル商品のほか、沿線地域の商品の販売強化</li> </ul>
<p>3-3. 駅を中心としたまちづくりへの貢献</p> <p>県・沿線市町による公共交通ネットワークの形成や新駅の設置などの「駅を中心としたまちづくり」に、積極的に協力・貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 関係機関と連携のもと、駅舎改良・新駅設置の検討</li> <li>② 沿線市町の公共交通計画策定への参画</li> </ul>

### Ⅲ.【挑戦する組織】常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

#### ◆重点項目 4. 【経営基盤の確立】

##### 4-1. 収支改善に向けた取組の強化

社員一人ひとりが新たな視点やこれまで以上のコスト意識をもち、利便性の向上や利用促進による需要創出により、安定的な収入の確保を図るとともに、徹底的なコスト削減に向けた取組を進めることにより、さらなる収支改善に取り組んでいきます。

- ① 不要設備や低稼働設備を撤去し、設備のスリム化を実施
- ② 設備の長寿命化・省メンテナンス化に資する工事の実施(ロングレール交換・橋マクラギ交換・橋梁の重防食塗装・照明のLED化など)
- ③ 社内公募制度で業務改善や収支改善・コスト削減に資する取組の提案・実施
- ④ DX化の推進による業務改善(IT機器の導入など)
- ⑤ 運賃の見直し検討
- ⑥ 遊休地の有効活用による増収(売却・賃貸の検討含む)
- ⑦ 飲食業において、沿線自治体・企業や列車企画と連携した企画の提案と実施
- ⑧ 鉄道施設を活用した広告スペースの効果的な運用の実施

##### 4-2. 持続的な経営が可能となる財務基盤の構築

全社一丸となり、最大限の経営改善を推し進めるとともに、国や県・沿線市町からのご支援・ご協力をいただきながら、安定的な事業運営と継続的な設備投資が可能となるよう、財務体質の改善を図り、持続的な経営に向けた財務基盤を構築します。

- ① 高いコスト意識を持った予算策定と適切な決算管理
- ② 経営状況を踏まえた設備投資計画の策定
- ③ 各種補助制度を最大限活用し、各事業を推進
- ④ 国・県・沿線市町など、関係機関との連携・協議や要請活動の実施



橋マクラギ交換



社内公募制度 通称“ちりつも”発表会



地元企業との連携イベント(銀河ダイニングへのへの)



ピールオフ広告(盛岡駅)

## ◆重点項目 5. 【持続的な成長】

<p><b>5-1. 絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくり</b></p> <p>社内公募制度などにより、社員のチャレンジ精神の向上を図りながら、新たなアイデアや技術を取り入れることで、さらなる成長・発展につなげていく好循環を作り出すことにより、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社内公募制度で業務改善や収支改善・コスト削減に資する取組の提案・実施【再掲】</li> <li>② DX化の推進による業務改善(IT機器の導入など)【再掲】</li> </ul>
<p><b>5-2. 外部環境の変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制の整備</b></p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大やDXの推進、少子高齢化の進展など、急速かつ急激な外部環境の変化にも迅速かつ的確に対応できる組織であり続けられるよう、組織・人員体制の不断の見直しを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 組織・事業の不断の見直しによる効率的な業務執行体制の構築</li> <li>② 法改正への対応(インボイス制度など)</li> </ul>
<p><b>5-3. 働きやすい職場づくりやワークライフバランスの推進</b></p> <p>働きやすい職場づくりやワークライフバランスを推進し、社員の満足度やエンゲージメントを高めることにより、生産性の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① DX化の推進による業務改善(IT機器の導入など)【再掲】</li> <li>② 部署間でのコミュニケーション機会の創出</li> <li>③ 執務環境・福利厚生の見直し検討</li> </ul>

## ◆重点項目 6. 【人材の確保・育成】

<p><b>6-1. 研修の充実・強化</b></p> <p>持続的に成長する組織であり続けられるよう、社員の職務能力向上に向け、OJTや階層別研修などの社内外の研修の充実・強化を図り、次代を担い組織を牽引していく人材を育成します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 人材育成方針策定</li> <li>② 新任階層別研修の実施</li> <li>③ 3年目研修の実施</li> <li>④ 企画実行研修の実施</li> <li>⑤ マネジメントコミュニケーション研修の実施</li> <li>⑥ エンゲージメント向上研修の実施 など</li> </ul>
<p><b>6-2. 安全・安定運行に関する技術力や利用者サービスの向上</b></p> <p>安全・安定運行を確保するための専門的な技術や知見の習得を促進するとともに、お客さまに快適にご利用いただけるよう、接遇研修等によりサービス・スキルの向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 技術勉強会や若手技能訓練会の実施</li> <li>② 事故防止検討会の実施</li> <li>③ 社外の技術研修などへの参加</li> <li>④ 運転取扱い訓練の実施</li> <li>⑤ バリアフリー研修の実施</li> <li>⑥ 接遇研修やアナウンス研修の実施</li> <li>⑦ トレインアテンダント研修の実施 など</li> </ul>
<p><b>6-3. きめ細かな採用活動</b></p> <p>新卒採用イベントへの参加やインターンシップの実施、多様な採用方法の導入など、きめ細かな採用活動を行うことにより、将来を担う優秀な人材の確保に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 適時適切な採用活動の実施 (新卒採用イベント・会社説明会への参加、U・Iターン採用・経験者採用など)</li> <li>② インターンシップの受け入れ</li> </ul>

## 2022年4月～2023年1月の輸送概況について

## ◇ 輸送人員

【単位:人/日】

	2022年度	2021年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	9,844	9,863	△ 19	100%	10,832	△ 989	91%
通勤	3,847	3,904	△ 57	99%	4,281	△ 434	90%
通学	5,997	5,958	39	101%	6,552	△ 555	92%
定期外	2,504	2,236	267	112%	3,754	△ 1,250	67%
合計	12,347	12,099	249	102%	14,586	△ 2,239	85%

## ◇ 旅客運輸収入

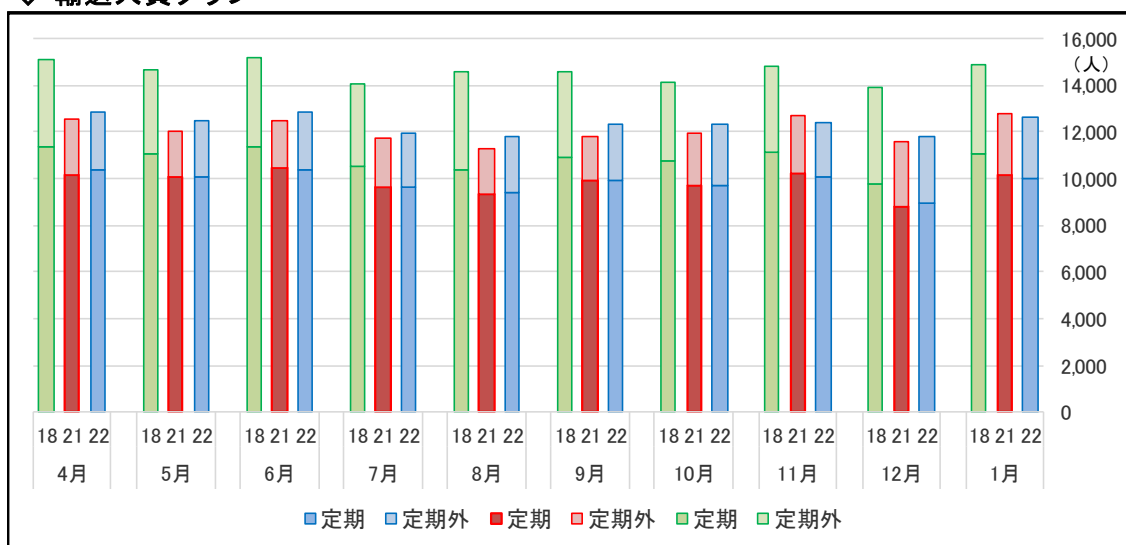
【単位:百万円】

	2022年度	2021年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	435	447	△ 12	97%	497	△ 62	88%
通勤	218	224	△ 6	97%	253	△ 35	86%
通学	217	223	△ 6	97%	244	△ 27	89%
定期外	378	318	60	119%	562	△ 184	67%
合計	813	765	48	106%	1,059	△ 246	77%

※ 輸送人員・収入とも項目ごとに四捨五入のため、合計しても合致しない場合がある。

※ 収入は、券種毎の統計数値のため決算数値とは異なる。

## ◇ 輸送人員グラフ



## ◇ 概況(輸送人員)

## 〔2018年(平常時)比較〕

(通勤定期) コロナによる通勤方法の変更などにより減少している (90%)。

(通学定期) 少子化の影響などにより減少している (92%)。

(定期外) 行動制限はないものの、飲食を伴う会合や旅行の自粛や通院回数の減少など出控え傾向があり、依然として大きく減少している (67%)。

## 〔前年比較〕

(通勤定期) 前年度と同程度で推移している (99%)。

(通学定期) 少子化による減少は続いているが、今年度開始した二戸市による通学費半額補助などによる増加も見られることから、前年度と同程度で推移している (101%)。

(定期外) 様々なイベントや祭りが復活し、行動制限も無いものの、断続的に蔓延があったため、前年度と比べて1割程度の増加に留まっている (112%)。

## リアルタイム運行情報システムの運用開始について

列車の在線位置を把握できる「リアルタイム運行情報システム」の運用を開始する。これにより、即時に列車の遅れや運休列車を確認することができ、利便性の向上が期待される。

### 1 開始日

2023年3月25日（土）

### 2 サービス概要

列車の現在地表示

遅れ時分表示

遅れや運休等の事由表示

多言語対応（英語・中国語（簡体字/繁体字）・韓国語）

パソコン・スマートフォン・タブレット対応



## [ 画面イメージ及び表示内容 ]

### 【概要】

- 路線を示す青い線の左側に「下り列車」、右側に「上り列車」が表示される。
- 青い線の内側から外側にかけて、走行している順番に列車が表示される。
- 遅れ時分によって、列車アイコンの色が異なる。  
[表示色/遅れ時分]  
青色：定時運行  
黄色：1～29分の遅れ  
赤色：30分以上の遅れ
- 青い森鉄道線・JR東北本線・JR花輪線のそれぞれ直通運転する列車も表示される。  
(案内区間は「盛岡～目時間」のみ)



### 列車アイコンをタップ

その列車の行先や到着予定時刻を表示

普通  
盛岡行き  
現在地: 渋民～滝沢

遅れ: 5分

停車駅のご案内

停車駅	到着時刻	定刻	見込
○ 滝沢		13:40	13:45
○ 菓子		13:44	13:49
○ 厨川		13:48	13:53
○ 青山		13:52	13:57
○ 盛岡		13:56	14:01

### 画面下のアイコンをタップ

運休列車や 30 分以上の遅れが発生している列車など、運行状況の詳細を表示

IGRいわて銀河鉄道は概ね平常通り運転しています。  
詳細はこちら

## 沿線関連等の取組について（2022年12月～2023年3月）

## 1. 企画列車

## 【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】

I G R の認知度向上及び新規利用者の獲得を目的に、各種イベント列車を企画しました。

① ぎんが列車 ～クリスマス号～

■2022年12月24日運行

クリスマスイメージしたイルミネーションで車内を装飾、サンタクロースが登場したほか、ビンゴ大会を実施し、お客さまへ景品をプレゼント  
奥中山高原駅では、駅前のイルミネーションを鑑賞できるように、約15分停車

② ぎんが列車 ～星空号～

■2023年1月15日・16日運行

小学生の親子限定の昼運行と対象限定なしの夜運行の2コースを設定  
車内をプラネタリウムのように演出、一戸町天文台の吉田台長による星のお話会や星に関するクイズゲームなどを企画

③ ぎんが列車 ～バレンタイン号～

■2023年2月12日運行

車内をイルミネーションと真っ赤なハートの飾りで装飾、二戸駅では、一戸町のとうもろこし「奥いちきみ」を活用したコーンスープやホットチョコレートなどをお振舞したほか、宝探しゲームを実施

④ キャラクター列車

■2023年3月4日・5日運行

沿線市町のキャラクターが定期列車に乗車、ぎんがくんときらりちゃんは盛岡駅で列車のお見送り、特製パネルで記念撮影をしたお客さまには乗車記念のプレゼントを進呈

⑤ I G R ぎんがスイーツ列車

■2023年3月25日運行予定

沿線5市町のおいしいスイーツを作り手のPRとともに、車内でお客さまに提供し味わっていただくもの  
銀河鉄道観光所員による沿線の観光ガイドも実施予定

(写真はイメージです。)

## 2. 企画きっぷ

## 【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】

鉄道の利用促進及び外出機会の創出などを目的に、企画きっぷのキャンペーンや期間限定発売をしました。



### ① IGRホリデーフリーきっぷ

■2022年12月1日～2023年2月28日発売  
デジタルチケット「北いわてMaas」での購入を対象に、1日乗り放題の「IGRホリデーフリーきっぷ」の半額キャンペーンを実施



### ②小学生100円きっぷ

■冬:2022年12月24日～2023年1月15日発売  
春:2023年3月1日～3月31日発売中  
冬休みや春休みの長期休暇に合わせて、小学生限定でIGR線内を片道100円で利用できるきっぷを発売



### ③シニア往復半額きっぷ

■2022年12月24日～2023年1月15日発売  
「小学生100円きっぷ（冬）」の発売期間に合わせて、70歳以上を対象にIGR線全区間の往復が通常運賃の約半額になるきっぷを発売

## 3. さんてつ銀河の星めぐり



■2023年3月26日運行予定  
前回（2020年2月）から3年ぶりに実施します。三陸鉄道・JR東日本盛岡支社・日本航空岩手営業所・県北広域振興局・岩手町のご協力により、さんてつ車両が再びIGR線を走行します。一部のコースでは、北いわての特産物をふんだんに使った洋風御膳や宮古市の「レ・ド・シェーブル」のヤギミルクスイーツを提供します。  
(写真は前回運行時のものです。)

## 4. 「助っ人 STAY」モデルツアー実証事業\*

## 【岩手県委託事業】



■2023年3月11日催行  
旧東北本線開業時につくられた鉄道遺構などを辿るとともに、好摩駅愛護会の皆様と駅前のイルミネーション装飾の撤去作業を行うなど、沿線の地域活動をお手伝いするツアーを実施しました。

※旅行ツアーの日程の一部として、地域のお悩み解決につながるボランティア活動を行う仕組み  
(写真はイルミネーション装飾撤去の様子です。)

## 5. インバウンド向け企画「利き酒列車」



■2023年3月6日運行

3月初旬に来県された台湾からのインバウンドグループに向けて、車両の一部を貸し切り、運行しました。盛岡市の酒造会社「あさ開」のご協力のもと、車内では利き酒大会を開催したほか、盛岡駅到着後は酒蔵見学や鉾屋町界隈の散策をしました。

(写真は車内での記念撮影の様子です。)

## 6. IGRパートナーズ会 総会・交流会



■2023年3月4日開催

沿線地域の活性化をめざし設立した「IGRパートナーズ会」の総会を3年ぶりに開催しました。今回は、二戸市内の3団体から活動報告を頂いたほか、所属する各団体や個人の皆様と交流を深めました。

## 7. 北いわてにおける交流人口拡大セミナー参画



■2023年2月17日開催

「持続可能な交流拡大と地域の魅力向上」をテーマに、岩手県及び岩手県立大学が主催したセミナーへ当社社員が講師として参加しました。講演を通じて、北いわてにおける地域ブランディングの考え方を共有しました。

(写真は講演中の様子です。)

## 8. 地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業 【観光庁委託事業】



■2023年4月1日発売予定

昨年11月実施の「観光庁・看板商品創出事業」に関するFAMツアー\*をもとに、岩手町・一戸町の「農畜産業×観光」及び二戸市・八幡平市の「漆産業×観光」の両コンテンツを旅行商品化し、今春から発売予定です。

※誘致促進のため、ターゲットとする国の旅行事業者等に現地を視察してもらうツアー

(写真はイメージです。)

## 9. 青山駅魅力化プロジェクト「あおやま まるごと カフェ」



■2023年2月18日開催

盛岡広域振興局、岩手県立大学と連携し、青山駅界隈をフィールドに地域コミュニティの活性化をめざした検討を実施しています。学生のアイデアをもとに、イベント「あおやま まるごと カフェ」を開催し、ターゲットである若者を中心に、青山の魅力を発信しました。

## 10. 祈りの灯火 2023～つたえる・つながる・ささえあう～



■2023年3月11日開催

災害公営住宅 県営南青山アパートでの東日本大震災12周年行事「祈りの灯火 2023」に参加しました。当日は、灯籠の設置作業に協力したほか、点灯式にも参加し、哀悼の意を表しました。

## 11. 青山雪あかり



■2023年2月10日・11日開催

青山地区まちづくり協議会主催の「青山雪あかり」に今年も参加しました。メイン会場である盛岡ふれあい覆馬場プラザでは、協議会の皆様と交流を深めながらスノーキャンドル作りをしたほか、青山駅青山南口にもキャンドルを並べ、温かな光を灯しました。

(写真は覆馬場プラザで制作したスノーキャンドルです。)

## 12. 浄法寺のねこ×銀河ダイニングへのへの 期間限定スペシャルランチ



■2023年2月4日・5日発売

二戸市浄法寺町のマスコットキャラクター「浄法寺のねこ」ぬいぐるみ発売を記念して、浄法寺のねこ監修のスペシャルランチを発売しました。デザートメニューを含めた3種のメニューを1日各10食限定で提供し、ご好評いただきました。

今後も「浄法寺のねこ」とのコラボ企画を検討していきます。